

評価シート（2024年版）

大阪府立四條畷高等学校制作

	評価の観点	4	3	2	1	得点
課題設定	動機と目的	動機や目的が明確であり、研究価値を含めて説明できている。 研究の動機や目的がよく伝わり、かつ意義深いことをしようとしていることが伝わってくる。	動機や目的が明確であり、十分に説明できている。	動機や目的が明確であるが、もう少し詳しい説明が求められる。	動機や目的を明確にする、または研究内容と一致させることが求められる。	
	研究内容と先行研究との位置付け	文献や論文の内容をふまえて、研究内容がよく練られている。 先行研究の内容をよく理解し、意義深い課題設定ができている。	文献や論文を調べ、それらとの位置付けや関連付けができている。	文献や論文を調べているが、それらとの位置付けを明確にすることが求められる。 参考文献などがきちんと示されているが、先行研究との関係性が不明瞭。（調べた範囲で）すでに知られている事実や新規性などへの言及がない。事前調査が不十分。	書籍や論文での事前調査が求められる。 きちんと文献を読んだ形跡が見られない。ちょっとネット検索しただけのようみえる。	
研究基礎力	達成目標の妥当性	課題に対して適切かつ具体的な目標が設定されている。 研究の目的や先行研究との位置づけ、到達可能性などをよく考慮した、妥当性がある到達目標が示されている。	研究の具体的な到達目標が定められている。 具体的な到達目標が示されているけれども、研究の目的や先行研究との位置づけ、到達可能性などを考えて、もう少し到達目標を工夫してほしい。	研究の到達目標が定められているが、具体的に示すことが求められる。 何かやろうと思っていることは伝わるけれど、達成されたのか判断できないような、抽象的だったり、あやみやな目標だ。	研究の到達目標を明確に示すことが求められる。 何を調べようとしている研究なのか、何を達成しようとしている研究なのかよくわからない。	
	計画性	この先の展望も含めた研究の道筋が示されており極めて計画性がある。 ひと通りの実験・調査等のおと出てきた課題に対して新たな課題を発見し、次にやろうとしていることが具体的に示されている、あるいは着手されている。	研究はいくつかの段階に分けて進められており、計画性が認められる。 必要な実験や調査などが整理されていて、ひと通り出来ている。	研究の方向性は定まっているが、段階ごとに計画的に進めることが求められる。 実験や調査が「とりあえずやってみよう」予備実験・調査の段階で、回数や内容などに大いに改善の余地がある。	研究の方向性きちんと定め、計画的に進めることが求められる。 課題が整理されておらず、やる内容がまだ定まっていない段階。	
	研究手法	研究目標を達成するための適切な手法が選択されている、または模索されている。 研究目標を達成できるように、よく考えられた実験・調査等が実施されている、または試みられている。	改善の余地はあるが、論理的で適切な手法を用いて研究を進めている。 研究目標が達成できるように考えられた実験・調査等が実施されているが、もう少し改善してほしいところが目立つ。	研究は進められているが、研究目標にあった研究手法への一層の改善が求められる。 事前の考察・検討が不十分な実験・調査を実施していたり、精度の低い実験・調査等しか実施できておらず、研究目標達成にはほど遠い。	研究目標の達成に向けて、何か具体的にできることから始めることが求められる。 研究内容を考えただけで、具体的に何か調査したり実験したり、といった様子が伝わっていない。	
	考察の妥当性	得られた結果や結論、成果が到達目標との関連性まで含めて極めて明確かつ論理的に示されている。 否定的・肯定的・判断不能等、到達目標に対する現時点での明確かつ論理的な結論・考察を導くことができている。	結果や結論、成果が明確かつ論理的に示されている。 実験・調査等の結果から、一定の結論を明確かつ論理的に与えているが、到達目標への結論が十分に得られているとは言えない。	結果や結論、成果が示されているが論理的な飛躍を改善することが求められる。 到達目標から考えると、結果が「解答」になっていない。あるいは、結果の導き方が直観に頼っている等、論理性に欠ける部分が見られる。	実験・調査等の事実と合致した結果や結論、成果をわかりやすく示すことが求められる。 結果や結論、成果などが示されていない、あるいは不明瞭でよくわからない。実験・調査等の事実と異なる結論を導いている。	
	発表	研究の到達目標に沿った実験結果や成果物等を、具体的なかつ内容が正確に伝わる適切な形態で示すことができる。 成果を、聴衆に伝わりやすく、かつ内容がきちんと整ったグラフ・図などを選択して伝えることができる。	研究の到達目標に沿った実験結果や成果物を具体的に示すことができる。 成果を具体的な数値やグラフ、写真や実物等で示すことはできているが、示し方（グラフや図の選択等）に改善の余地がある。	実験結果や成果物について、その途中経過を具体的に示すことができる。 途中段階ではあるが、具体的な数値やグラフ、写真や実物など、成果に関する内容を示すことは出来ている。	途中経過も含め、現時点での結果や成果物を具体的に示すことが求められる。 具体的な数値やグラフ等、写真や実物等、形態を問わず、成果に関する内容が一切示されていない。	
	発表の技法	聴衆を意識した分かりやすい言葉選びと自信に満ちた態度で卓越した発表技法である。 自然体で自信ある態度で、聴衆にわかりやすい言葉で語りかけるように発表している。	事前によく準備されており、聴衆を意識して発表することが出来ている。 聴衆の方を向きながら発表出来ているが、覚えてきた内容を再現するだけのような発表になっている。	事前の準備は出来ているが、原稿を見ずに語るなど、発表技法の改善が求められる。 原稿をしっかりと書いてきているが、原稿を眺み上げてまるで朗読しているような発表になっている。	より一層の事前準備と、発表技法の向上が求められる。 事前の準備が十分ではなく、行き当たりばったりで話している。	
加点要素	加点要素（各2点）	独創性や独自性がみられる。	質疑応答での対応が適切である。	社会貢献を実践できている、あるいは学術的価値が高い研究である。		0~6点を加算することができる
コメント						合計
※ 各項目の下段は、各評価段階の「めやす」です。加点要素は、該当するものがなければ0点で構いません。						